

令和元年度 長崎県教育振興会議報告書

長崎県教育委員会

「第二期長崎県教育振興基本計画成果指標の達成状況」及び 「事業群評価数値目標の達成状況」に関する意見等

1 確かな学力の育成について

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		今年度から義務教育課内に設置されている「学力向上推進班」が中心となって、小・中学校への訪問などを実施していると思うが、どのような取組なのか。
	○	今年度から3か年かけて、県内全ての小・中学校を市町教育委員会と一緒に訪問し、各学校の実態に応じた取組を支援していくこととしている。
○		予測困難な時代が到来すると言われる中で、プログラミング教育やICT教育の更なる向上に加えて、読解力の育成も必要である。 今後の取組として、「読解力育成プラン」を土台とした「長崎県授業改善メソッド」を構築するとあるが、これはどのような取組なのか。
	○	全国学力・学習状況調査の結果が、小・中学校とも全国平均をやや下回る大きな要因の1つとして、全ての教科の土台となる読解力に課題があるのではないかという仮説にたち、RST（リーディングスキルテスト）を活用して読解力を見極め、育成していこうというものである。 来年度中には、読解力育成プランとこれまで積み上げてきたものをまとめる形で、本県の子どもたちに合った学習方法を長崎型メソッドとして開発し、再来年度には県下の小・中学校へ広めていく予定である。

2 情報教育の推進について

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		ICT教育の中核となる拠点校を指定して、ICTを活用した授業力向上に係る研究を行ったとのことであるが、Wi-Fi等の整備についてはどのような状況か。また、遠隔地間の学校同士をICTで結んで行っている授業とはどのようなものか。
	○	拠点校については、インターネット環境も整っており、パソコンや電子黒板などICT機器も整備されている。この拠点校での先進的な取組を県下全域の小・中学校にも広めている。 遠隔地間の学校同士をテレビ会議システムでつないで協働学習を行っている。小規模校と大規模校を結ぶことで、少人数ではできない経験ができしており、協働学習の大切さを実感している。

**「第二期長崎県教育振興基本計画成果指標の達成状況」及び
「事業群評価数値目標の達成状況」に関する意見等**

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		島地区にも多くの学校がある本県は、ICTを活用した遠隔教育を推進していかなければならないと思っている。財政的に厳しいことは理解しているが、遠隔教育推進の前提となるインフラの整備について、今後の見通しを聞かせてほしい。
	○	県立学校の校内LANは有線であり、Wi-Fiではないという現状である。文部科学省では、次年度から3年間で、全ての学校に高速で大容量の通信ネットワークを整備する「GIGAスクールネットワーク構想」という事業が計画されているため、国の状況を注視しながら、本県として必要な予算が確保できるようであれば検討していきたい。
	○	遠隔教育を推進するうえで課題となるのが、セキュリティの問題である。教育と公務のネットワークを完全分離するなどして、授業をするうえで活用しやすいネットワーク環境を整備し、どの教室にいても、どの地域とも普通につながることができるよう、国の事業を活用しながら取り組んでいきたい。

3 国際理解・外国語教育の推進について

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		県として様々な取組をされている中で、英語力の向上については着実に成果が上がってきていると思うが、小学校の先生方の研修の受講状況についてはどうなっているのか。
	○	小学校での英語の教科化、早期化に伴い、平成27年度から全ての小学校を対象に、英語教育の中核となる教員を対象に研修を行った。今年度からは、英語指導の経験が少ない教員を対象に研修を行っているところであり、少しでも多くの先生方が安心して授業ができるよう、来年度からの新学習指導要領の完全実施に向けて準備をしている。
○		海外への修学旅行では、ホテル宿泊ではなく、ホームステイをすることで、日常の中で現地の方々話す経験を子どもたちにさせてほしい。
	○	修学旅行は、約280名程度の規模で行くため、ホームステイ先の確保という点で難しい状況であるが、現地の高校生と交流する取組を行うことで、子どもたちが外国語に触れる機会を設けているところである。

**「第二期長崎県教育振興基本計画成果指標の達成状況」及び
「事業群評価数値目標の達成状況」に関する意見等**

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		英語に興味・関心がない子どもたちに対して、いかに関心を持たせるかということが大事だと思う。そのためには、「読む」「書く」「聞く」「話す」の中でも「話す」ところから始めてほしい。口に出して話すことで、モチベーションも高まり、興味も出てくると思う。
○		県の様々な取組や学校の先生方の努力もあって、今の子どもたちは、怖気つかずに流暢に英会話をしており、大変頼もしく感じている。

4 ふるさと教育の推進について

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		自分が住んでいる地域では、学校と地域が連携して、地域の文化を幼少期から教えるような環境が定着してきているように思う。学校としても地域の団体と連携することで、学校では見えない子どもたちの日常の様子を知ることができると言われていた。今後とも、学校と一緒にいろいろな取組を行っていきたい。
○		地域の祭りや行事を子どもたちが見たり、参加したりすることで、ふるさとへの愛着が生まれると思う。まずは親が参加することで、子どもたちも参加しやすくなる。親の姿勢を子どもたちは見ていると思う。

5 体力の向上と学校体育の推進について

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		中学校では部活動などで体を動かす機会があるが、小学校については、社会体育をしておらず、屋外で動き回らない子どもたちでも、体力・運動能力についてはある程度よい結果が出ている。その理由は、継続的なジャックナイフストレッチの効果であると聞いている。 また、体育の授業という限られた時間以外にも、外で楽しんで遊ぶことも体力の向上につながるという学校現場の先生方の声があった。

**「第二期長崎県教育振興基本計画成果指標の達成状況」及び
「事業群評価数値目標の達成状況」に関する意見等**

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		<p>体育の授業の質の確保が大事だと考えている。中学校、高校の保健体育の教員は専門性が高いと思うが、指導力向上セミナーへの小学校の先生方の参加についてどのように考えているのか。</p>
	○	<p>指導力向上セミナーについては、大学教授等から専門的な指導を仰ぎながら研修の充実を図っている。小学校教員の悉皆研修については、特段行っていない。 新学習指導要領では、オリンピック・パラリンピック教育の視点など新たな要因も加わってくるため、工夫しながら取り組んでいきたい。</p>
○		<p>総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団などとの協力体制についてはいかがか。</p>
	○	<p>総合型地域スポーツクラブについては、県内で活動しているところが34団体、会員が6,300人程度である。クラブを定期的に巡回して、地域の子どもたちの活動がスムーズにいくようにしたり、クラブのPR活動に努めている。令和2年に登録認証制度を制定する予定であり、総合型地域スポーツクラブの知名度向上と運営に資するよう、今後とも連携しながら取り組んでいきたい。</p>

6 きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援について

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		<p>不登校の児童生徒数は年々増えており、平成30年度には2,000人近くになっている状況で、一人一人を大切にする教育体制が整備されているという認識を持っているのか。また、児童生徒や保護者と直接関わる先生方へのフォロー体制はどのようになっているのか。</p>
	○	<p>不登校の要因は、家庭に係る状況、友人に関わる問題など、様々な要因が複雑に絡み合っており、児童生徒一人一人にどのように寄り添うことができるのかが大きな課題である。学校に対しては、臨床心理士等の専門家をスクールカウンセラーとして全学校の約半分に配置し、スクールソーシャルワーカーの活用や県で作成した「関係機関との連携のマニュアル」の活用等により、丁寧に支援していききたいと考えている。職員研修についても、更に深まりが出るような研修のあり方を考えていきたい。</p>

**「第二期長崎県教育振興基本計画成果指標の達成状況」及び
「事業群評価数値目標の達成状況」に関する意見等**

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		<p>適応指導教室については、出席扱いになるということもあり、保護者の中には適応指導教室に行ってくれるだけでいいと考える方もいて、学校につながるところまでいかずに悩んでいる指導員も多い。県から指導員研修会への支援をいただいているが、研修会の回数を増やすなどして、事例研究や指導員同士の情報共有の場を増やしていただけたらありがたい。</p>
	○	<p>県内には15の適応指導教室が開設されており、研修会については例年8月に行っている。指導員の日頃の悩み等について、協議の場は必要であると考えているが、研修会の回数や内容、やり方等市町教委と情報連携を図りながら、今後検討していきたい。</p>

7 その他

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		<p>国民体育大会の順位について、今年は今後につながる素晴らしい成績が出ているが、ラグビーのワールドカップやバレーボール、世界陸上など行われている中で、子どもたちが地域スポーツや競技スポーツなどを実際に見て、やってみるというきっかけができる時期だと思う。本県の今後の活躍を楽しみにしている。</p>
○		<p>働き方改革の中で、学校の先生方も、海外への語学研修など自己研鑽を積むうえでも一呼吸つけるような教育環境を作っていく必要があるのではないか。</p>
	○	<p>教員にゆとりがなく、自己研鑽を積む時間がないことは自覚しているところである。県の取組として、平成28年度から夏の期間に1週間の学校閉庁日を設けており、そのような時間を活用して自己研修等に取り組んでいただきたいと考えている。海外研修については、財政面での負担等もあり難しいところではあるが、先生方がゆとりを持って研修を受けることができるよう取り組んでいく。</p>